

読み聞かせを通して感じたこと

大平 啓子さん(二反田)

ある日「ふるりの民話と伝説」という、小さな本を村の図書館で見つけました。

その本には、昭和48年、発行所：鮫川村公民館・発行者：金澤次男と書かれてありました。

その小さな本を手を、ページをめくると最初に書かれてあった昔話は「化身した黄金の鮫」でした。その他にも、村内の地名や石、神社にまつわる話がたくさん書かれてありました。

その時、「これだ！今子どもたちに伝えていかなければならないのは。」と思い、お話ポケットのメンバーに仲間入りさせていただき、現在、鮫川小学校の「読み聞かせ」の活動しております。

子どもたちは絵本ではない「私の読む声」だけで物語を理解し、いつも瞳を輝かせて聞いてくれます。その姿に毎回私自身が感動させられています。わたしは、「むかしばなしのおばちゃんだ!!」とその声に今日も明るく返事をしています。

根本純子さん(写真)は、震災の影響で昨年3月から赤坂西野字前田にあるご実家に移住していました。移住してすぐに読み聞かせボランティアとして活動していただきましたが、4月からいわき市に戻るそうです。

鮫川村の子どもたちのために、1年間読み聞かせをしていただきました。



ぼく・わたしのこの一冊



棚井 駿介くん

(青生野小6年生)

本の題名

「おれは ティラノサウルスだ」

作者名：宮西 達也

この本は、小さなプテラドンがあばれんぼうのティラノサウルスになりきって、動けなくなったティラノサウルスを助けるというとてもいいお話です。ぼくがこの本を選んだ理由は、あらすじを読んで興味をもち、どんなお話なのか続きを読みたくなったからです。強いティラノサウルスを小さな体のプテラドンが助けたので、ぼくは、勇気を教えてもらいました。つらいことやくじけそうな人におすすめの一冊です。



藤田 琉那さん

(青生野小5年生)

本の題名

「あなたが生まれるまで」

作者名：ジェニファー・デイビス

私がこの本を選んだ理由は、お腹の中で私がどんなことをしていたのか、気になったからです。一番心に残ったのは、赤ちゃんがお腹の中で、足を動かして遊んでいたことです。この本は、あなたがお腹にいた時の本当のお話です。私もお母さんのお腹の中で、こうやって大きくなったんだなあと思いました。赤ちゃんの時のことを思い出したい人におすすめの一冊です。

4月23日は「こども読書の日」です

図書館に行こう

●村図書館(村歴史民俗資料館内) ☎49-3106



子どもの読書活動は、子どもがことばを学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で不可欠なものである。したがって、すべての子どもがあらゆる機会にあらゆる場所において自主的に読書活動ができるようにしなければならない。  
(子どもの読書活動の推進に関する法律 基本理念)

読み聞かせの様子

4月23日は  
こども読書の日

「子ども読書の日(4月23日)」は、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めることを目的としています。

村民の皆さまへ

幼い時から話を聞く体験は、子どものことばと心の発達に大きく影響するだけでなく、豊かな人間性を育むうえでも重要です。

子どもたちが多くの本と出会い、自主的に読書を楽しめるようにするために、子どもたちはもちろん、村民の方もぜひ参加してください。

村子ども読書活動推進計画  
策定

村では、「鮫川村子ども読書活動推進計画(平成23〜27年度)」に

基づき 地域における子どもの読書活動の実状などを踏まえ、学校、家庭、地域が一体となった子どもの読書活動推進に取り組んでいます。また、「鮫川村子どもの読書活動推進委員会」を設置し、2月28日に開かれた委員会で、平成24年度は「毎月第3土曜日は、家族一緒に読書の日」を推進する取り組みが決まりました。毎月第3土曜日は、家族全員で1冊の本を囲んで読書してみたいかがでしょうか。

図書館においでください

村図書館では、4月21日・22日に、古い雑誌や絵本などを「無料で配布」いたします。

ご家族一緒に読む本を見つけにぜひきてください。また、図書館にない本で、ご自分が読みたい本がございましたらご連絡ください。図書館で購入します。

ご家族そろってぜひ図書館においでください。